

NKE

合理化機器提供も

03年度上期を底に業績向上へ

引続き新製品効果に期待



中村 社長

NKE(京都府長岡京市、中村圭社長)は、〇三年度上半期を底に業績が向上してきて、同社商品のユーザーが増えていることに加え、市況の回復がフォロワーの風となった。〇四年度は、新製品効果が徐々に上がってくるものと予想され、次期中期計

画に向けた足固めを図る方針。

同社は、主にエアータックやヒック&フレイス、システムコンベヤーなどの省力化機器と省配線機器の開発製造を行う。特に、業界の先鞭を切ったエアータックは約三十年が経過する。

「ミニユニオンツール

「今後の開発コンセプトは、最適モノづくり体制強化のためにオープンネットワークの流れを受けて、使い勝手

のよいセル生産機器とユニオンイヤー技術(省配線)を基礎にしたミニユニオンツール。UNI-の開発を行っている。(中村社長)と話す。

日本でのモノづくりは変種変量生産が志向され、セル生産が増えてきたが、情報ネットワークの対応の仕方も変わってきた。セル生産での工場内のレイアウト変更が行われるケースも発生するため、そのためにLANや無線の利用が必要になる。「新しいモノ作りを志向す

るNKEとしては今後セル生産機器に何か必要かを熟知していく。すなわち、セル生産の第3フェーズとして合理化機器を提供していく必要がある」と話す。

特に、従来のユニオンシリーズはこれまでの設備をそのままの形で継続的に使用してもらえ、ネットワーキング化に適応できるよう新しくインテグレートイジングシステム「UNI-」としてすべてを完全包括し、さらには発展させたシリーズ展開を行っている。それに伴う新製品も〇三年春から順次発売し、秋まではラインアップが完了。認知度も高まってきた。

ら夏を底としてその二倍の売上げを達成した。社内体制の確立と新規顧客の増加、加えて市場の回復基調が好要因となった。

「UNI-」の分野でも

商品的には、イメージレディングシステム「UNI-」のリモートモニターシステム「AUTO Messaging for れんら君」、リモート画像モニターシステムなどが、FAでの組み立ての分野だけでなく、セキヨリティなどのノンFAの分野でも応用

展開が進んでいる。

「〇四年は、新製品効果が出てくるが、引き続き新製品を出していきたい。〇三年は、『波を起さず』をスローガンに取り組み、さき波が立つてきているので〇四年度はその波をさらに大きなものにした。起った波を夢へとつなげて、大きな波を起したい」と思っている。

「〇四年度は同社にとって三カ年計画の最終年となり、足固めの年と位置付け、さらに〇五年度以降は飛躍の年にしていく考えだ。

「新しいモノ作りを志向す